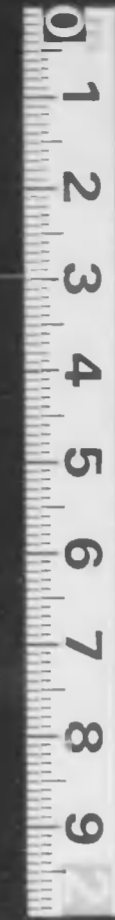


編輯部報情閣内
ンセ廿・號六十四第・日四月一

寫真週報



新年號





朝陽映島

曉天をあかねに染めて朝陽は東から昇る。悠久幾千年長江の浮島に映する光またあらたなり。

戦捷の春日

旅は

船で



主 要 各 船 航 路	
神戶	神戶
大津	大津
北支那	北支那
鹿兒島	鹿兒島
小笠原	小笠原
南館	南館
南館	南館
小樽	小樽

上海、青島、天津方面への郵船は日本郵船

近海郵船 東京内丸



天皇陛下には明けて寛算三十九の
 春を迎へさせられ、皇后陛下には
 歳三十七を算へさせられる。
 天皇陛下には天機愈々御慮はしく、
 玉體いやが上にも御健やかにわたら
 せ給ふことは國民齊しく慶祝に堪へ
 ないところであるが、時局愈々重大
 を加へるに及び、御政務、御軍務
 の外御多端にて夙夜御精勵はされ
 るは畏き極みである。
 時局を思召され、新年宴會は御
 止めになり、御日常も御節約を旨と
 せられ、かへつて前線將兵には侍
 武官御差遣の都度、清酒御賞等を賜
 ひまた軍人援護にはさきに三百圓
 を下賜せられた。
 皇后陛下には御機益々御慮はしく
 去る十月御目出度く御内若帯の儀を
 舉げさせられ、御慶事も御近き御慶
 定に承るが、御奥では御親ら御慶
 御製作、度々傷兵に賜ひ、御仁惠深
 き御歌を三度まで拜し、さきには陸
 海軍病院に各宮妃殿下を差し遣はさ
 れたことは誠に感激に堪へないこと
 ろである。
 事變第三年、長期建設の新春を迎へ
 竹の崗生の御茶々に榮えまして國の
 基ゆるぎなき大御代の瑞祥を拜し奉
 るは民草一億の限りなき喜びである



戦地にもいよいよ正月が近づいた。この手紙が以前には新らしい年がもうやってくるかと思ふが、
○警備のついでに所にも内地からお正月のお飾り物が届いた。早速飾りつけた。戦時下の支那に日本のお正月が生れたんだから。

お正月には餅を食ひたいのはわい、かういふ戦地にお正月の餅が食ひたいのはわかるだらう。
今朝、手分けして準備に取りかした。
餅米は木下一等兵と餅米を買い出しに行つた。勿論、手と金を換ふよ。
支那の農民たちはわれわれ日本兵が支那兵とは違つて金を換つてやるので大喜びだ。
歸つて来ると、他の連中は、煉瓦で籠もこさへ、釜の代用には竹筒の水甌、蒸籠は桶の底をぶち抜いてどらなにか作りあげて見、角燗湯で蒸して、早速火を起して蒸した。早くも盆の上に新聞紙を敷き、米粉をまいてお餅をこねてきた。
え、餅がはち／＼と



戦場にも二度目のお正月が訪れた

やつと無しが上つた。木下君が構へて、俺がとるこ
とになつた。とる
とて、はち／＼と
六ヶ敷しいね、生
れて始めてのせい
でもあるまい。無
器用な恰好でやつ
てみるうちに、よ
とお前の顔と腕を
思ひ出した。うち
で、はいつも俺が構
な。

景氣のよいハッ
タンコの音を部落
一杯にこだまさせ
ながら、白揚きあ
げた。餅は白から
チープル上にほう
りあげられた。千
切り役の部隊長殿
は待つてましたと
ばかり嬉しそうだ

お餅も出来た、餅も搗いた。これ
でお正月は何時で
も来い、だといふ
ので、特で地里へ年
賀状や便りを書い
た。部隊長殿はお
前の家族は無事
か。子供は丈夫
か。など、一々尋
ねて下さる。お母
は、六十、一雄は三
つ、お父は、お母
上の御世話と一雄
の養育はくれぐれ
も大目のお前も
身体に気がつける
んだよ。



撮影 内閣情報部



オオバギトモシ金太郎

行軍部隊に支那の小供が幾人か仲良く従って行く。占領部落でなつてしまつたみなしごだ。
いよ／＼その部落を出発すると、親を失つた子供らは親切な日本の勇士を慕つて、なだめてもすかしても離れない。

「あーん、ほら、おいちいかい坊や」そうして勇士は祖国に残したわが子を想ふ。



「やあ、兄ちゃんが日本の兵隊さんと水牛に乗つたら、納屋の方から可愛い一匹が二つ駆け出してきた。
「兵隊さん、あたしものせてよ」
「小父さんお断してよ」
日の丸の旗を持つた支那の子供が今日も勇士を取り巻いてねだる。
「よし／＼」
片言まじりの支那語で勇士はぼつ／＼と今日は金太郎の断を始める。

撮影
内閣情報部



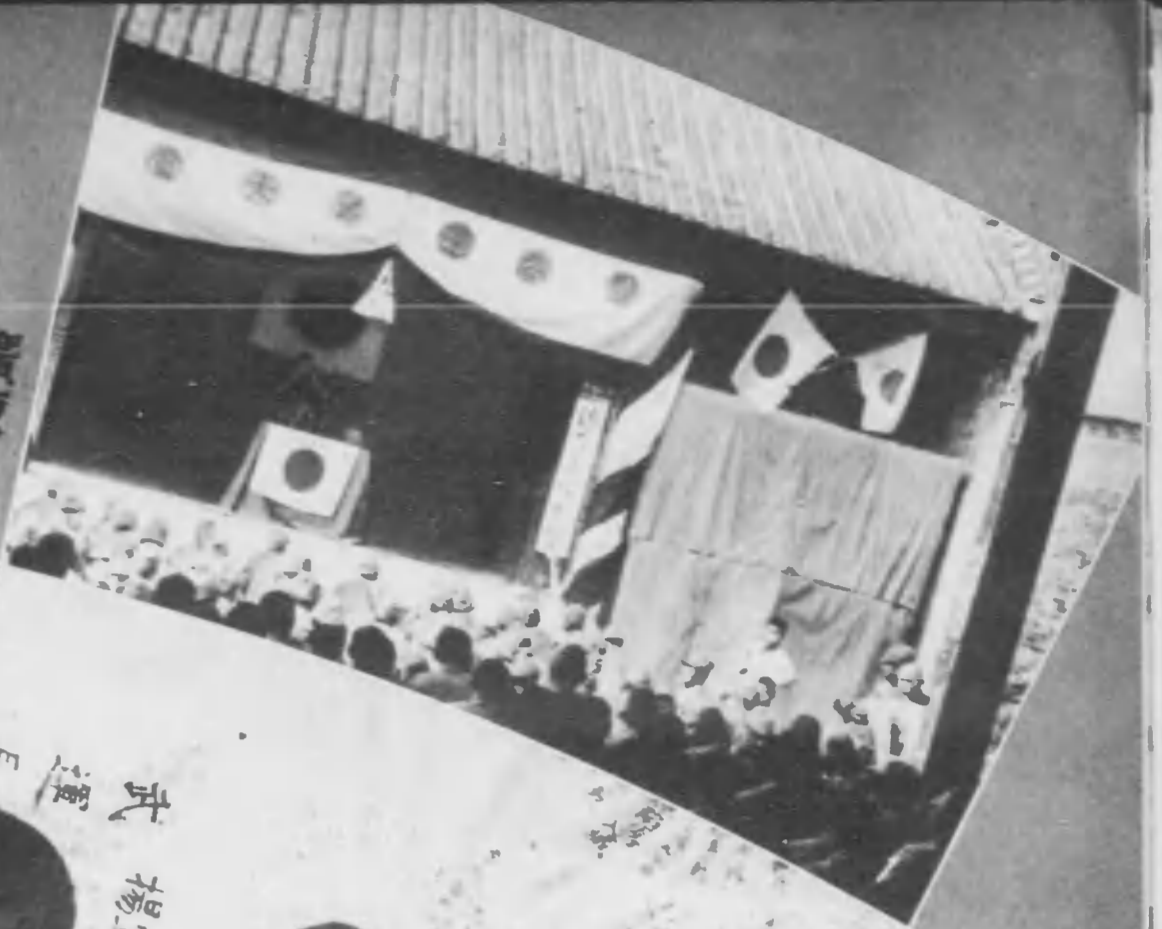
「兵隊さん、豚連上、豚連上」
丸々と肥つた小豚を擔いで部落の子供たちがやつてきた。
「いつもの御飯、食べて下さい」
「有難う、有難う」
晩飯の飯立を考へてみた勇士たちは大喜び。

支那の子供は水牛に乗るのがうまい。手綱を巧みに操つて駆け廻る。
「この牛強い、小父さんもお乗りよ」とすいめられて勇士も仲良く跨がる。



陣中演
爆

廣東



武揚
揚安
博



藝大會
笑



1 兵隊さんが飯と飲りの次にほほしいものは、それは笑ひだ、ごく簡単なつまらないと思へる娯楽でも兵隊さんはそれで元氣百倍する。
 2 今ほ主なき支那人邸宅の庭に急ごしらへの舞臺が出来た。ビール箱のスタージと日の丸のどん帳だ。勇士たちの拍手喝采にまづ現はれまはしたは怨敵兼介石退散の神樂大陸版。
 3 一番フアンが多いのは何といつても浪花節。吹き出しちやいけな。世界無比日本陸軍の紋つきじや。語るは東來軒廣丸二等兵の『バイヤス鐵道中記』

4 ヴァイオリンとハーモニカ二重奏、ヴァイオリンもハーモニカも慰安大會有るを知つて三日前、二人でこつこり支那人の古道具屋で買つてきたばかり。
 5 プログラムはすいんでいよ、待望のもの、『赤城の子守唄』。書割は天幕、臨時舞臺は看板のよせあつめ、役者のかつらも黒い布と馬の尻尾、俱し、日本刀は真正正銘の薬物だ。
 6 笑笑が崩せずしてドツとわきあがる、部隊長も一等兵もみんな一緒だ。しかも舞臺の名前はつひと月前、珠江北岸の城敵掃蕩に勇名ふるはせた〇〇部隊の勇士だ。



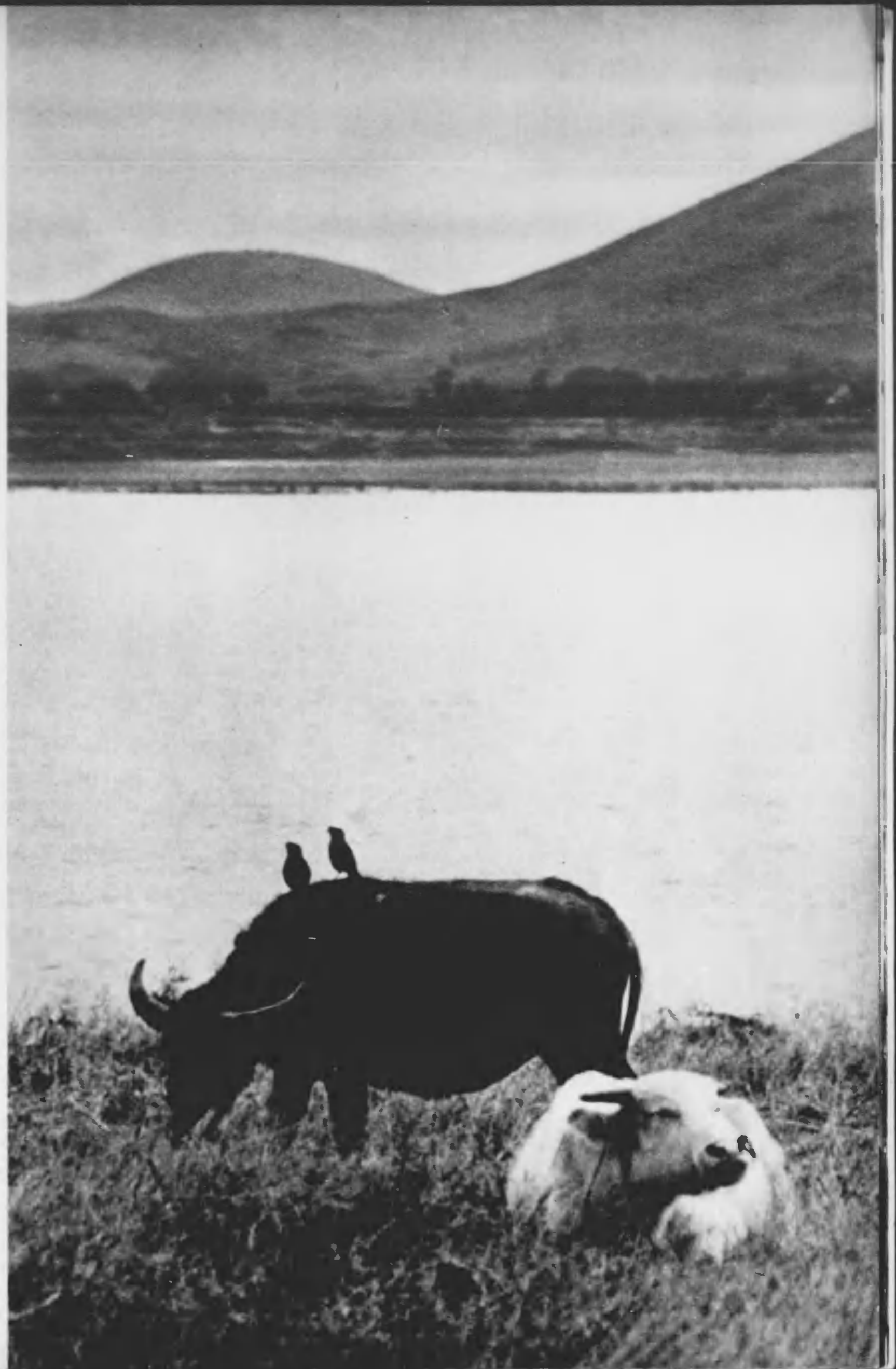
新支那の黎明

陽までぼつとゆるやかな朝霧に、川邊も部落もしんと静まり返つた彼方から真紅な太陽がゆる／＼と昇り始めた。霧が濃い。一望九い白く小波を立てゝゐた川面にジャンクが一隻音もなくすべつてゆく。部落から歸の聲が聞える。大陸の春は深い。

撮影 内閣情報部

悠々大陸の春

ひるになると朝の寒さはけろりと忘れたやうに暖かくなる。部落では支那の子供がきやつきやと騒いでゐる。川邊には放牧の水牛が背に二羽の鳥を乗せたまゝ大陸の夢をのろ／＼と食つてゐる。数ヶ月前のあの激しかった戦ひの跡はどこへやら、正に悠々大陸の春である。



江 南 日 本 列 車
 上 海 - 杭 州 線
 海 杭 線



支那らしい沿線風景、
 火車(汽車)の音をきいて
 子供たちはすれちがふ客車
 の窓を見上げながら、「先生
 進上、進上！」
 確實で、安全な海杭線。
 然し、そのかげには京
 軍の鐵道警備隊と軍屬たる
 鐵道従業員への感謝をわれ
 われは忘れるまい。
 日夜變らぬ聲々の警備は
 陸軍の鐵道隊によつてつ
 けられてゆく。



支那語と日本語で、少年
 賣子。かごの中はタバコ、
 季節の果物、まんぢう其他
 「タマゴ、タマゴ」

車窓に展開するクリーク
 風景をのんびり見ながら、
 安全な旅がつづく。皇軍の
 治安工作に協力して、こ
 まで来るには、鐵道従業員
 の涙ぐましい努力が續けら
 れた。

日本の汽車で安全な
 旅をする支那民衆

上海・杭州間一九〇キロ、著名な海杭線はすつ
 かり生れ變つて海杭線と名づけられ、日本の鐵道
 挺身隊によつて日本製の列車が運轉されてゐる。
 以前とは比べものにならない清潔な客車、發
 着時間もほとんど狂ひなく正確などの客車に支那
 民衆は安心して乗り、江南の交通治安は維持され
 てゆく。

貨車と變りない以前の
 の四等、一般民衆の常
 川車は廢止された。そ
 の代り、その料金で、
 緑色のクッションのつ
 いた三等にのつて旅が
 出来るのだ。

撮影 長濱 三及
 F.L.ハミルトン



警備日誌

上田 廣

〇月〇〇日

晋南清の軍が一段落を告げた最近、あややくこの町にも「平和米」の空気が濃厚になつてきた。敵は殆ど南下したやうであるが、たゞ汾河をへだてた西方の山岳地帯には、まだいくつかの砲門をそろへた部隊が、この山西の首都を見下してゐる。が、あまり弾丸や食糧の補給がつかなく、その首領も西安の重要会議に出席してゐるとか、とりたてての意志を持たないやうである。夕方と言つても日没は午後九時半頃だが、その頃になるとよく山の中腹あたりにノロシが赤や青にあがる。敵軍に富んだ兵隊の話によれば、赤は前進を示し、青は後退、そして全員集合の合図が白ださうである。それも公然と我々にも見えるところであるから、圖々しいと言へば圖々しい、考へがないといふにはあまりにも原始的な連絡法である。この頃はその合図も單なる合図に

とゞまつて、容易に行動に出ることがない。言はば實力のないデモみたいなものである。一時彼等は夜間を利用して汾河に架橋作業を開始したが、僅か一回の我が空軍に襲撃をつぶし、作業半ばでこれを放棄して逃げかへつてしまつた。それ以来その汾河の橋まで出てくるやうなことはないが、山裾の部落には今でも時々現れ、不意を襲つては良民の貯蔵する食糧や女を奪ひとつてゆく。一度連れ去られた女は歸つてくるといふことがないやうである。若い妻や娘を持つ農民たちは仕方なく危険を冒して河をこちへ渡るものが少くない。一々年の大半の雨意をもつこの月の汾河は濁流を奔つてつくることないありさだが、小舟ひとつないこないだまでは女、子供と言へども泳ぎ渡るよりのほかに方法がなかつたのである。そのために数人のものが押しながさる行方を見せないである。彼等にはかゝると前も背後も墳墓だつた。數日前からそのやうな農民を救ふためもあつて、西城門近くに我が架橋作業が開始され、すでに昨日完成を見るに至つたといふ。橋はこのところ兩軍の勢力地帯をまたいで良民の往來に賑つてゐるであらう。やがて来る日は来る。そのときこそ西方山岳地帯が掃蕩される日だ。夜、トーチカから望むいつもの山腹のあたりに、今日も光る灯は赤い。距離にして五軒もあらうか。

〇月〇〇日

スパイらしい男がよく宿舎内にやつてくる。今日も四十をまだいづくも出てゐないかと思はれる。壁に眼の玉の飛び出したあやしげな男が、重飯を喰つてゐる私たちの部屋を細目にかけて覗きこんだ。はいつてもいと云ふと、その男は手にきけたきたない袋を私たちに示しながらはいつてきた。きつい調子でなにかと示しながら、ひどく地方なまりの交つたかりに早く口でなにか喋りながらその袋から三つの卵を取り出した。飯が残つたら取りかへてくれといふのである。卵のすきな

同室の若い上等兵はさつそく「行々」を繰りかへして落んだ。私はあやしいと脱んだので、殊更さりげない口ぶりだ。「お前はどこから来たんだい？」ときいてみた。彼はニヤニヤ笑ひながら、「河の向ふから来ました」「いつ？」「いまこゝへついたばかりです」今頃たつた三つの卵を持つてくる理由が私には理解出来なかつた。「良民證を出してみい？」「良民證？」「うん、お前は城内で買はなかつたか」急にその男は思ひ出したといふ風に汗にぬれてゐる上女のポケットから良民證らしきものを取り出した。たいていは胸のあたりに来て隠ひつけてあるのに、その男もおかしきと感心理由がある。卵の好きな若い上等兵まで羨しになり、私がひろげた良民證に眺めいつた。雄たけの良民證からは喬有林二十八歳で農家に従事してゐるといふ文字が讀みとれた。私はもう一度男を見た。隅に灼けた紙色の厚い皮、薄く発げあがつた。伏脱勝ちだが時々ギョロリと光る眼眸。私は思はず詰め寄つた。「お前はいくつだ？」

相手は明らかに狼狽のいろを現しながら良民證を指した。「二十八です、間ちがひありません」「ウソぢやありません。二十八です」私はなんでも同じ言葉で突込んでみたが、返事もハンで押したやうに同じである。たゞその間ちがが少しづつ後さりである。瞬間、鼻があいたかと思ふと、飛鳥の如く男の姿は表にあつた。「それい」とばかり私たちが靴も穿かず飛びだしたが、そのときはもう男の姿は表門から消えてゐた。表は驛場の廣場になつてゐて、そこでは毎日四五百人もゐるかと思はれる苦力が働いてゐる。



その中へでもぐりこんでしまつたと見え、ついに私たちは見出すことが出来なかつた。部屋へかへつてみると、卵だけが三つ私たちを待つてゐた。ありがたい、スパイの置土産である。

〇月〇〇日

夕方〇〇より××積載列車つく。貨車五輛にいつぱい。價格にして數億。今回の南部清戦の商賣品ださうである。この輸送には我が隊も萬全を期してゐる。即ち〇〇隊の警備兵を乗せ、驛假泊の場合にも物々しい監視がなされてゐる。といふのは、一時各所に飛散潜伏してゐた敗残兵が列車の北進と共に漸次北方に移動しつゝ、グルマ太りに太り、相當部隊となつて強行、その列車を追つてゐるのが判つたからである。列車の速度は度々の破壊に軌道があまりよくないのでそれを追ふにあまり苦痛ではない。それにしても、我が視野の外を野と言はず山と言はず、命による長期抗戦を忘れた〇〇列車を追ひゆくさまは哀れなもの以外に想像出来ない。いや恐らくそれ以上からの命であらう。哀れさは一層深刻である。

夜半果せるかな驛東南方より襲撃してきた。がそれあるを豫期してゐた我々は、直ちに應戦これを撃退する。その兵力未詳の敵は十五の遺棄死體を残して東方山中に走つた。我れに損害はなかつた。

〇月〇〇日

警戒の夜があけると、朝は夜を忘れてのどかである。裏のトーチカからは歩哨の姿が消え、まだ生れて間もないかいらしい小隊が餌をあさつて小屋を出る。遙か大行の彼方からあがる太陽は雲に隠れて金色に輝く。曲ブラスを吹へて裏の曠野に出る。左手に臨汾の城壁を望み、右方は果ても知れぬ耕地と荒野のつゞきである。群なして降りる



高麗島は今朝も曠野を渡つてくる幾人に追はれ、はげしく羽ばたき、散り、集り、避けて鐵道線路の方へ飛び去る。

竹負籠や天秤で野菜を運ぶ農人たちは日毎に増し、今では正に一ヶ小隊ぐらゐをかぞへられる。彼等は重い荷をもつとせず、早い高聲でたえずなにか喋り合ひながらやつてくる。籠のなかには南瓜、西瓜、茄子、いんげん、胡瓜、ごくまれに真桑瓜などが見られる。討伐の功が現れて日本紙幣をたかく評価し始めた彼等には、部落からこゝまでの數軒など左程苦にならないらしい。

私たちの顔を見てもなかなかな愛想がいい。帽子もかぶらぬ文字通り顔色の顔がわさとりしくニヤツと笑ひ、ちよいと腰をこゝめるやうにして通り過ぎる。「你早起来た」

やさしく話しかけると、支那語を話す日本人がおかしいといふやうな、好感に満ちた微笑を浮かべ

る。そして彼等は相手がいゝとなるとその場に荷を降す。決して相手を選ばずして商品をひろげるやうなことはない。が、一度見こんだ客からは必ず儲けたいではない。人がよささうな男だなどと思つてひやかしてゐると怒りにひび目には含はされてしまふのである。私もついにこの相當額見知りの男にさうしてまんまとやられてゐる。その男はもう五十をよほど出たやうな老人で、いつも人の半分ぐらゐの籠にやうやく背負へる程度の備かなものしか持つてこない。私はその點に同情して買つてやる氣になつたのだが、この日は珍しく内地産に似てゐる真桑瓜を持つてゐた。

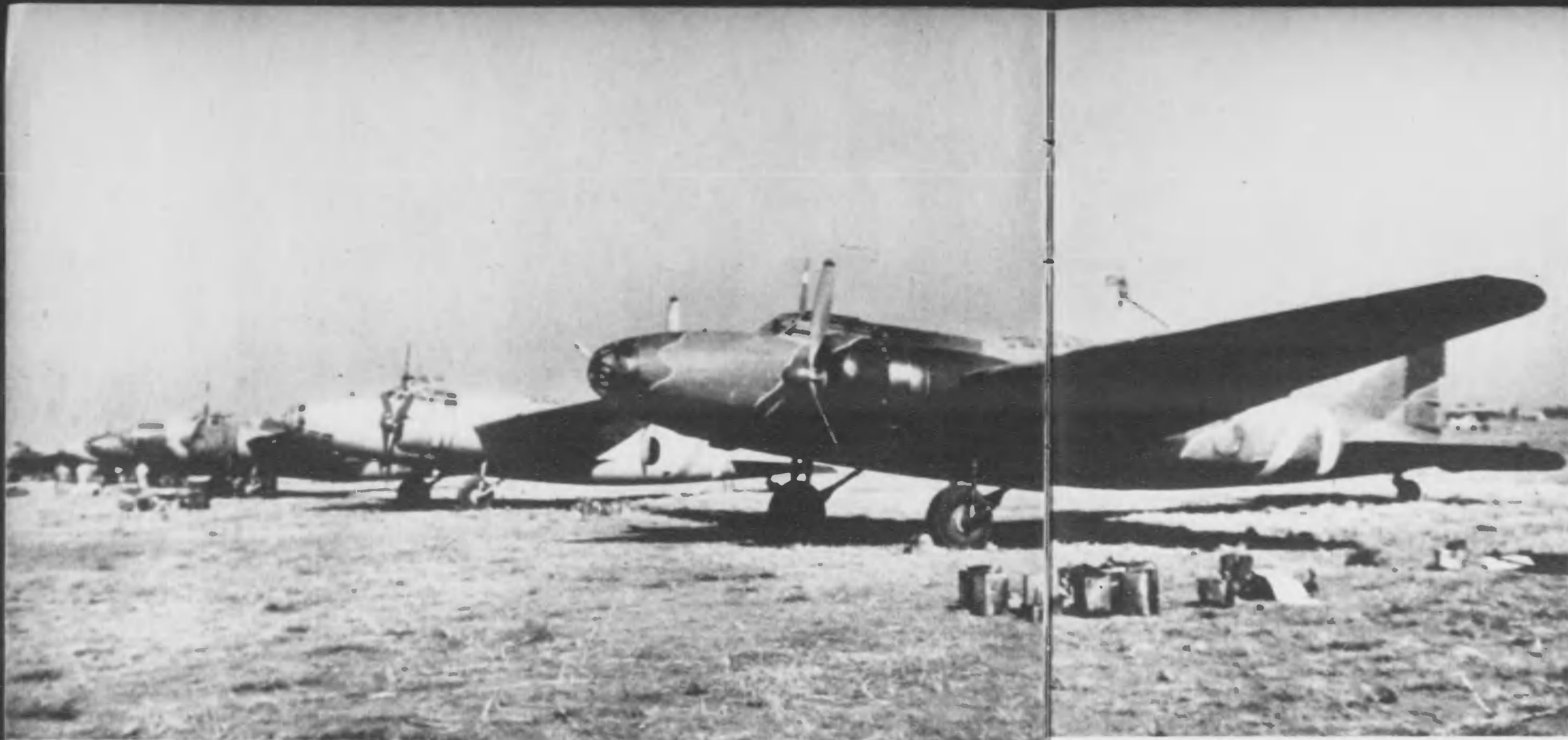
ひとついくらだとときくと、特別十錢にして置くかと答へた。そして中からあまりよく熟れてゐなさうな小さな奴を手にして見せた。私はもう五錢出してほしいからうまいのが欲しいと言つた。骨つばい兩掌でこすつてみたり、耳のあたりを持つていつてふつてみたり、ポンと指さきではちいてみたりしてから自信ありげに、「頂好々々一毛五不賣」十五錢ぢや安すぎるよといふのである。さうした親切に好意をいだいた私は明日も来るやうに言つて宿舎にもどつたが、この五、六日種飯賣ひにやつてくる小孩子がそれを見せんものゝ喰つたら腹了になると腹をたいてみせた。まだ熟してゐないといふのだ。けれど老人を全く信用してゐる私はそれを否定し、職友といつしよに割つてみた。残念ながらそれは小孩子の言ふ通りであつた。

「ごらんさい、私が行つて取りかえてきてやる」いゝといふのを持ちだした小孩子はすぐもどつてきた。何處へ行つたかもうわからないのだ。これには誰れでも一度はひつかゝるのだと小孩子は笑つた。翌朝私は同じ場所へ出てその老人を待つた。老人は平氣な顔をしてやつてきた。私は頭からおさへつけるつもりで、

「貴様のやうな奴はもうこゝで商賣をさせん」ときめつけた。老人はニヤリと北現笑み、



(筆者上田廣は東京鐵道局 濱田 昇氏)



○○基地に待機するわが新鋭陸軍重爆撃機。



機鋭新の軍陸

撮影内閣情報部

○陸月の寒風を切つて今もなほ連日のやうに猛撃の手をゆるめぬわが陸の重爆撃機は、次々と新鋭機を加へて、敵敵の心臓をいよ／＼寒からしめてゐる。

十二月十日、陸軍では航空教育の一元化を期するため、天皇直轄の教育訓練機関として陸軍航空総監部が創設され、優秀な重爆撃機操縦と教育されることになつたが、この人材の整備充實とともに、わが優秀無比な航空機製作技術によつて次から次へと出現する新鋭機群はわが空軍をしてその威力を今後益々加へしめることになつた。

○では行つて参ります一動風は身を切るやうに寒い。が、重爆の意気は烈々、闘志は燃える。

○方面爆撃行に向ふ陸の新鋭重爆撃機

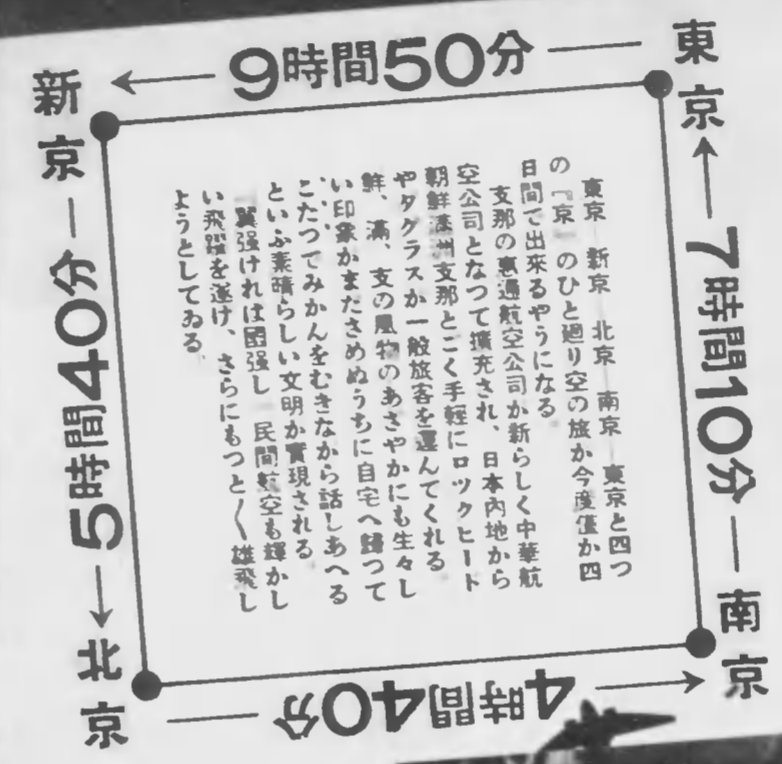


出動命令をまよおせしと○○基地に機翼を張る陸の特設戦闘飛行。

翼で結ぶ四つの京



平城は故都の本城だ。解州は大同江の流に故都の影を映し、その歌にひびく。船に鳥の羽かざりがついて、ふる遊覧船が老人の長い煙管の茶煙をうすくゆるがせながらギョウと音させて大江を渡る。



東京 新嘉坡 北京 南京 東京と四つの「京」のひと廻り空の旅が今度僅か四日間で行われるやうになる。支那の東洋航空が新しく中華航空となつて擴充され、日本内地から朝鮮、支那とく手軽にロッキヒートやクワスか一般旅客を運んでくれる。鮮、漢、支の風物のあざやかに生々しい印象がまたさめぬうちに自宅へ歸つてこたつてみかんをむきなから話さあへるといふ素晴らしい文明が實現される。翼強ければ國強し、民間航空も輝かしい飛躍を遂げ、さらにもつと、雄飛しようとしてゐる。



新嘉坡まで白衣の朝鮮人を見つけた。大目に鴨江を渡つて安東を見ると、忽ち靑衣の支那人を見、すつかり國境の気分を味ふ。この鴨江は東洋一だといはれ、流石の情緒は鴨江に流れてゐる(新嘉坡から)。



撮影 國鐵 光島



洋々と流れる松花江上の行き交ふ船を眺める白米の子の首に十字架がかかいつゝある。北滿の中心地ハルビンに北滿の開発とともにその榮華をまじやく。

以前のハルビンは、ロシア語の看板が並び、ロシア情のキヤパレリ等で賑はつてゐたが、今では日本色がだん／＼強くなつてきてゐる。然しキヤイスカヤ街を通ると、まだ／＼國際都市の濃い情緒が流れてゐる。





↑ 新京は都市計畫も府々と進み日に月にもさし進歩を遂げ、五族協和の大滿洲國都としての外観を呈へつゝある。寫眞はその官廳街。

↑ 北京、ペキン！
萬壽山の傍と昆明湖は青々と深く傳統をたへ、結核がボートあそびに興ずる。近代的城市のきれいなハイマントウエーヴとハイビルは新しい北支風物の一つにかぞへられる。寫眞は後方は橋谷閣。

↑ 三方は山に圍まれ四方は獅子江邊けたしてから一年余、飛軍占領後の南京はいま盛んに復興に向つてゐる。紫金山もいまは一年前の政略のおもかげうすれ温かく南京の市街を包んでゐる。



↑ 承德は熱河とも呼ばれた山間の首都。こゝにはラマの神廟がありしかも現在では完全に形態を保つてゐる唯一最大のラマ廟である。





武昌に拜す初日の出

風は剣を切つて寒く、古塔の暈は霜にはまて美し。光は東より、遠く祖國の空を拜して勇士の胸は波うつ。朝々と天地を震す大和男の子の喇叭の音。武昌に事變第三年の旭日は輝く。

撮影 内閣情報部



撮影
F・L・ハミルトン

近衛首相は組閣以來
二十ヶ月が史上未だ
かつて見ざる難局に身
を以て處し、今軍費下
に二度目の意欲深い新
年を迎へていよいよ
健康、日夜多忙はま
りない政務に盡してゐ
る



省道鐵



黄金の島 佐渡

大藏省

今、日本の、長期経済建設のためには何をおいても政府がたくさんの金を手もとに持つことが一番大切なことだ。

- ☆なぜ金が大切か
- ☆なぜ政府は金の増産をはかつてあるか
- ☆なぜ政府は民間の金の回収上をしようか
- ☆なぜ政府は金の一般消費の節約を徹底してあるか
- ☆なぜ政府は去る十一月十五日金貨金の増産調査をしたか

以上の問題をこゝでわかりやすく考へてみよう。

支那事変に要する経費は現在までのところ臨時軍事費だけで七十四億が計上された。この政府の拂ふ金は民間にわたり、二度の「経済戦強調期間」もまだ記憶に新しく、八十億を目ざす貯蓄が全国内に叫ばれた。そして、今後も物資を豊富に消費する近代科挙戦はまだつゞき、戦争と並行して日滿支東亞協同體の新しい平和と秩序のために是非とも必要な経済建設が、長期にわたつてすみめられ、これにあてられる金額は莫大なものである。そしてこの莫大な金が皆多数種類の「物」いひかへれば戦用資材、開發資材に變つてゆくのだ。武器とか新工場機械とか鐵道の敷設材料とかこれらの「物」のうちには止むを得ず外國から輸入しなければならぬものも少なくない。そのため、事變勃發の昭和十二年は六億の輸入超過になつてゐる。

「雪の新道 吹雪で暮れる。佐渡は雪たかや 灯が見えぬ。おけさ節に名高い佐渡は、事變下日本に再び時局の脚光を浴びて大きく前面に押し出されて来た。佐渡の西海岸日本海の荒波が岸を打つ相川金山は産金國策の眼に浴びて大増産計畫を樹立し、黄金を吹く島として昔の繁盛をとりもどしたのである。古いたがねは近代の堅岩機にかへら

れ、本造のほつたて小屋は鐵とコンクリートの立派な工場にかへられた。又新倉からは坑内のガソリンカーも運化されようとしてゐる。それよりも尙特筆すべきことは、「佐渡の金山」の世の地獄、昏る陽子は針の山」と歌はれたやうに、昔は金山に働く者は、諸國の流入ばかりで故郷や肉親を離れ光の無い苦役を續ける世捨人であつたが、今やこゝに働く人々は一應てよ金山、鉄とる心」のスローガンも高く、國策の最尖端を光明と希望に輝いて勤務にいそむ産業者

の戦士であることだ。政府は産金奨励規則を公布し、又日本産金協同會社を設立した。金取納の聲は澎湃たる國民運動となつた。其の他對外爲「金」の問題と云ひ、金保有量の調査と云ひ、「金」の問題は日々我々の公私生活と離るべからざるものとなつたのである。この機会に、金の採取される現場を詳の圖、歴史の島の佐渡にとり紹介するのにもまた興味深い事と思ふ。

撮影 加藤 善平



朝から暗い坑道に小さいカンテラ一つを頼りに入坑する坑夫の頭は坑とハッパ(ダイナマイト爆紋)と轟鳴の生活への赤心の現だ。

採掘区三十萬坪、坑道の深さ千七百尺にも及んでゐる相川金山はかつての最盛期、最長年間には金の含有率、百分の一であつたといふが、現在では百萬分の五といふ率になつてしまつてゐる。しかし、従業員は職員の赤誠と近代化された設備とは含有率の低下をものり切つてぐんぐん成績を上げて行く。



探掘区三十萬坪、坑道の深さ千七百尺にも及んでゐる相川金山はかつての最盛期、最長年間には金の含有率、百分の一であつたといふが、現在では百萬分の五といふ率になつてしまつてゐる。しかし、従業員は職員の赤誠と近代化された設備とは含有率の低下をものり切つてぐんぐん成績を上げて行く。

らない。又金の國勢調査を行つたのも長期經濟建設に備へるためである。金の増産の爲には探掘に採掘設備の建設に補助金を出すことにし、技術員を積極的に養成し、又産金の資材の輸入税は特に徴収しないことにし、金の買上價格の引上や買上手費料の廢止などもしてゐる。なほ、昭和十二年度からは大規模な産金増産計畫をたて、昭和十一年の産金額は一億五千萬圓だつたが、昭和十七年には五億圓を産出しようともくろんでゐる。民間の金の集中については造幣局が取扱ひ、東日及び大毎の兩新聞社ではその取次をしており、日本銀行でも金製品を賣戻條件で買入れてゐる。これに應募して金を政府に賣却する人々は非常に多くひつきりなしに鉄後の熱誠が示され、また外地でも金動員運動は熾烈をきはめ臺灣だけでも三千五百萬圓をこしてゐる。この運動と並行して金の消費節約のため金使用規則が出来、昭和十三年八月にはなほ一層強化改正され、金使用の時は齒科用を除いてはすべて許可がなくなりその結果年約二千萬圓の金が節約される見込である。

この國家經濟の非常時、輸入超過といふことを、小さくしてわれわれの家庭を單位にあてはめて考へてみよう。家庭内に重病がある或は火事になつたといふような家庭非常時には、疾病退治に或は家庭經濟の建設にやだんいらない物を山買ひ込まなくてはならぬ。然しこの金は家庭と商人の間では紙の金、即ち紙幣の受渡して話は済むが、國家と國家の間では紙の金は全く通用しない。滿洲國と支那とをぞく第三國への支拂ひには是が非でも、昔ながらの「金」でなければ駄目なのだ。それで事變の始つた、昭和十二年だけでも八億六千萬圓の金が外國に流れて行つた。しかも、これからは長期經濟建設のため、なほ一層の「物」が要る。そして金現送はやはりどうしても續くであらう。今、日本にとつて金が大切だと云ふのはこゝろいふ譯である。こゝで、外國から物を買ふ金を出来るだけ多く準備するためにも金の増産をはからなければならぬし、同時に民間から金を回収し、國民もこの際國內では出来るだけ金の使用をさしひかへるようにならなければならぬ。

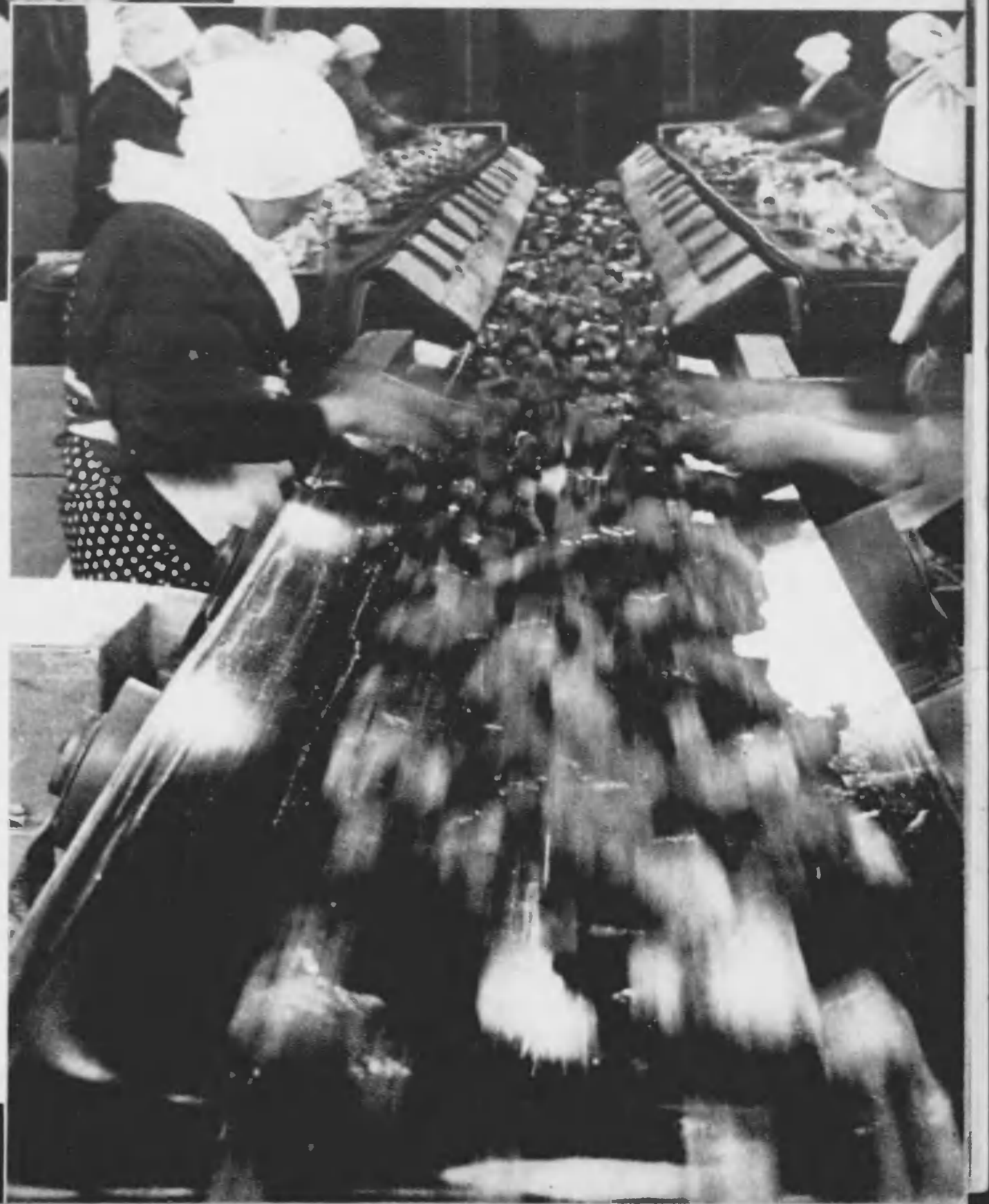


今、戦時下日本の金の重要性を考へれば考へるほど國民は金増産については勿論、金賣却や使用節約についてなほ一層徹底的に政府に協力することが望まれる。

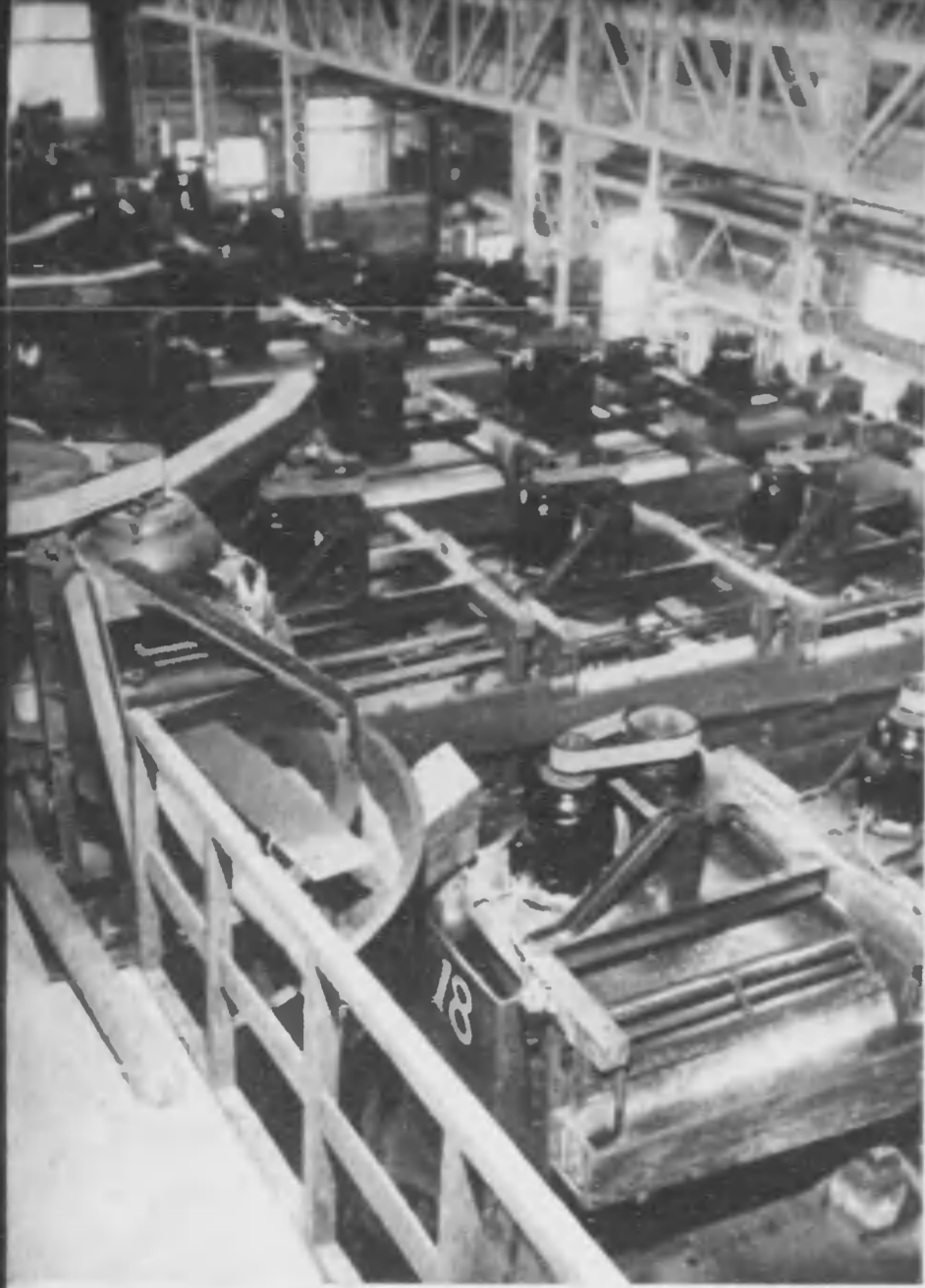
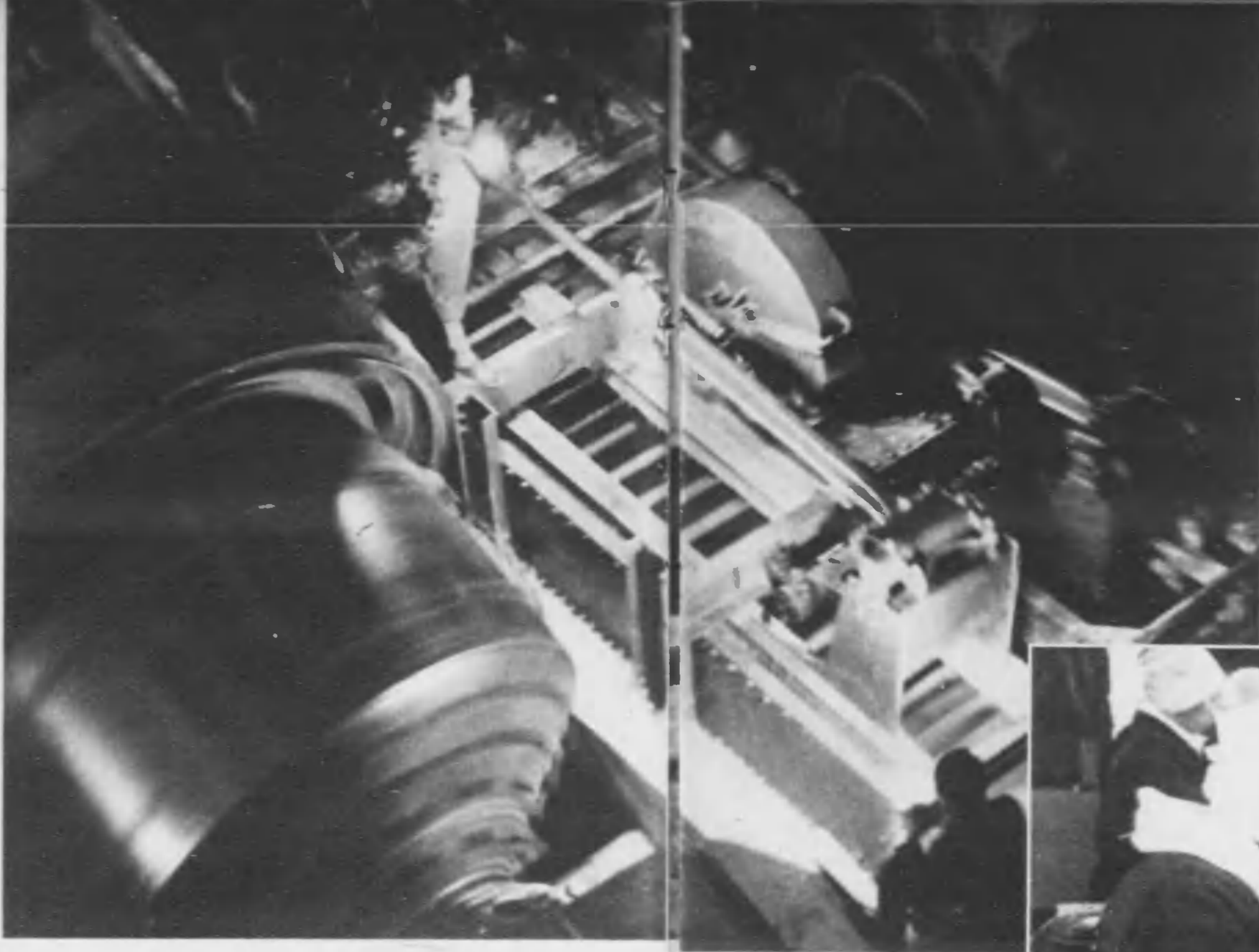


黄金の島佐渡

近世科学は青化法により、浮遊法により、黄金の最後の一歩に至るまで採取しつくす。科学日本の歴史はこゝにも高らかにあげられてゐる。

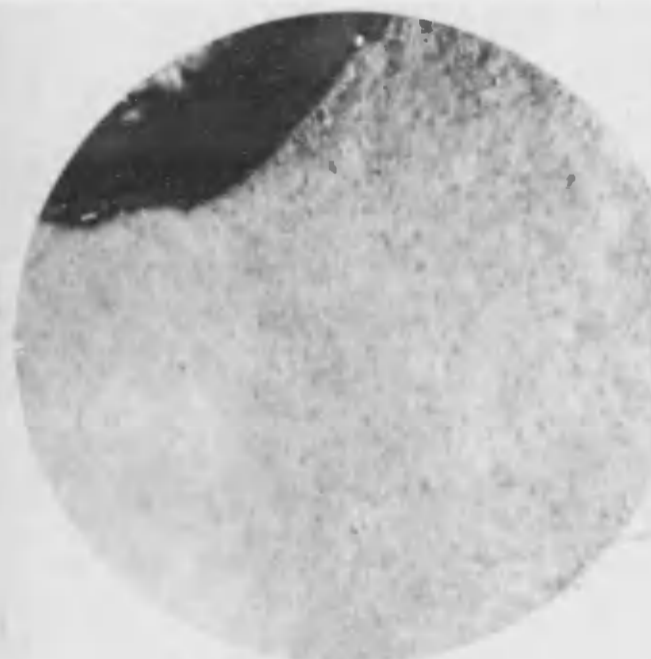


探検法も歴史が古いだけに手工業的なものから最新のものに至るまで種々な方法が採用されてゐるが、こゝに紹介する浮遊探検法は相川金山の特長とする工程で、わかぬではこの方法の先驅をなすものであり、規模の廣大、設備の完備は東洋一といはれる。堅岩機で採掘された金鉱石は輸山電車で先づウオシダ・トランメルといふふるひにかけられてきれいに洗ひ落され、ベルト・コンヴェイヤにのつて探検機の前を通る。



選ばれた磁石はベルトからベルトをへつて選入たる粉砕機にかけられボイルミル(球目)を通し、浮遊機に選ばれる。浮遊機の中は特殊な油が泡を立て、左の富集はそのクオースアツブ、このよつくの泡の中にあるのが百分の七ミリの金粒だ(銀は常に金に附随する)。

泡のつた金粒は奔流となつて工場外の大溜溜槽に入つて濃縮され、次に最後のフナルタイプレスに入れられ濃縮されて精製となる。この工程では富集にあるベルトの泥のやうな精製が最後の段階となる。かくて相川金山専用の港から船で瀬戸内海直島の精製所へ運ばれてはじめて煉然たる黄金となる。



黄金の島佐渡

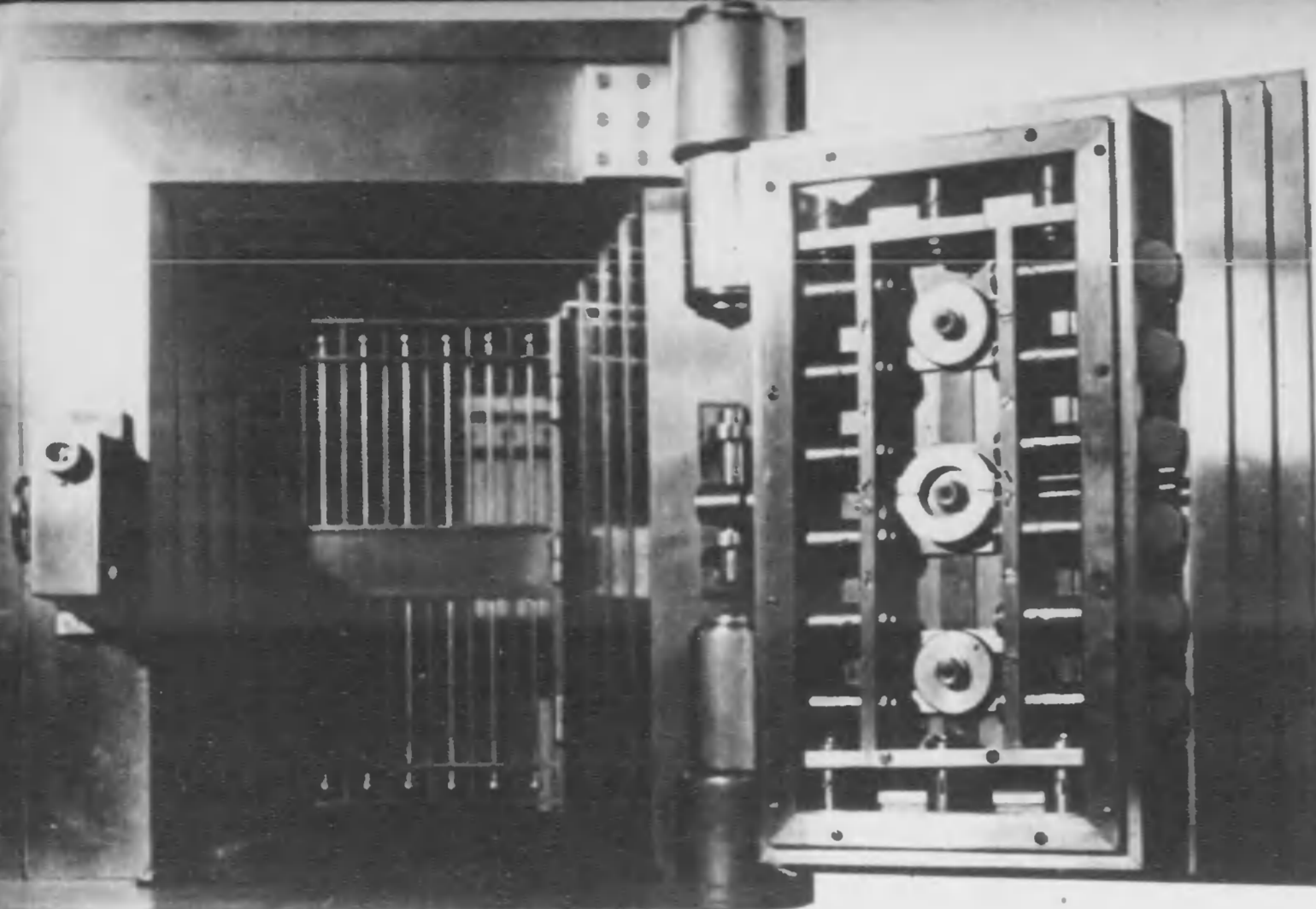


産金国策で長期経済建設に協力してゐる佐渡に鉄後の種りは堅い。確保相扶、勞資協同の精神は全島にみなぎつてゐる。起てよ金山鉄取る心。なのだ。おけさ丸につて、大陸に出征する勇士(下左)も心強い限りであらう。

日本銀行の金庫には

日本銀行は昭和十三年七月から金製品買戻条件付買入を始めた。時局に對する國民の赤誠は金や金製品を率先して國家に提供し長期經濟建設に心強い協力を示してゐるが、かういふ金の中には精巧な美術品も數多く、又歴史上の記念品もあり如何に國家のためとはいへ、一般に鑛産してしまふのは文化的見地からあまりにも忍びがたいので、原形のまままで日本の經濟力の増強に役立たせることに決定されたのである。賣却中は金茶釜、大判、小判、金盃など種々つづいてゐる。

なほ、この制度は事變終了後二ヶ年経過すれば賣主の請求によつて賣戻されることに規定され、又一口の金額は大體五百圓見當からに限られてゐる。



日本銀行の地下室にある大金庫。この中に國民の赤誠が澤山な金製品となつて獻納或は賣却され大切に保管されてゐる。

撮影 菊地俊實



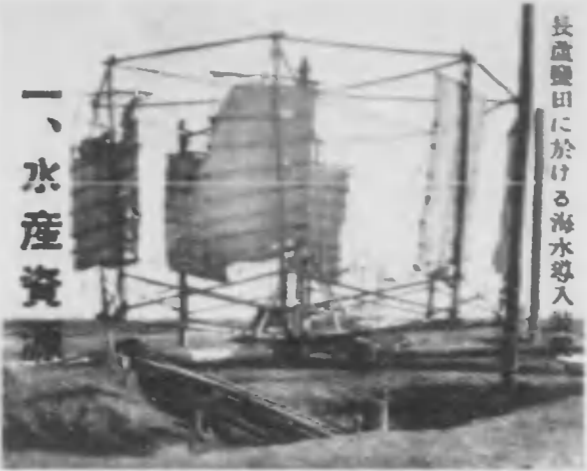
起てよ金山銃取る心
無事故て護れ銃後の日本



占領地域にはどんな資源があるか

今や東部の占領地域はかつて日本戦史にその例をみない廣大な面積に達した。即ち察哈爾、綏遠、山東、河北、山西の北支五省は勿論、江蘇、安徽の全部、河南、湖北の東半、浙江、江西、湖南、福建、廣東の一部に及んでゐる。實に支那三大河流域の重要部分を確保し、支那本部の大半、全支中重要な地域を悉く包含するに至つたわけである。

さてこれ等占領地域内には無数の資源が、賦存してゐるが今その重要なものに就て概説を試みてみよう。



一、水産資源

支那の水産物中最も重要なものは鹽である。支那沿岸で鹽の採れる地域の重なるものは渤海、地活附近の長蘆鹽、山東半島の山東鹽、江蘇、浙江兩省の海岸線一帯の兩淮鹽、兩浙鹽、福建省廈門附近の福鹽、廣東省沿岸から海南島に至る廣東鹽等である。一體支那は世界でも有数の產鹽國で、一ヶ年の總生産額は大陸二百三十萬噸内外である。この内には前記の海鹽の外に池鹽、岩鹽、井鹽等といつて大陸の奥地から採掘するものもある。



山東鹽の山

が、一番多いのは何といつても海鹽で總生産額の七割七分をしめてゐる。總生産額の一割八分をしめる岩鹽、五分をしめる池鹽、井鹽等の陸鹽は僅かではあるが、古山西、陝西、四川、雲南等の各省に分布してゐる。これら產鹽地域の大部分は既に新政府の傘下に包含されてゐるが、然し従来の製鹽方法は甚だ幼稚でまだ鹽田の開發餘地は多分に残されてゐるのである。

鹽は人間の日常生活に缺くことの出来ない貴重な食料であると同時に、又工業鹽として製鹽工業、硝子工業、人絹、硫酸、マグネシウム工業等あらゆる化學工業原料として年々その需要は急増し、わが國の年需額約二百數十萬噸の四割を遠く歐洲から輸入してゐる現状から考へても近海鹽である支那の鹽田開發が如何に急務であるかやわかる。



企畫院

支那の農産物の主なものには棉花、粟、大豆、米、麥類、高粱、粟、玉蜀黍、甘藷、果實、茶、煙草等その内最も注目すべきは棉花である。

支那の棉花生産額は舊曆前に大體一千餘萬ピクルで作付反別は四、五畝畝であつた。

產額の多い省は河北、山東、江蘇、湖北等、その中でも江蘇省は地味が肥沃で、氣候も棉作に適し、支那第一の棉産地域として知られ、揚子江口北岸は所謂通州棉として有名であり、南岸は上海棉及び常熟、嘉定、江陰方面の優良棉で、共に上海紡績工場に集まり、河北棉、山東棉は天津、青島に供給される。河北、山西、山東だけでも年産五百餘萬ピクルに及び、天津、青島紡績工業の繁榮を招いたのである。



支那に棉花栽培の盛になつたのは昔から國內に治亂つねなく、匪賊の略奪が絶えなかつたとして戦時よりも棉花を選んだ點であるといはれてゐるが、地味、風土等の點から見ても米國、エジプト等に必ずしも劣るものではない。わが國は棉花の大産國で、事變前の年輸入額は八億餘圓に達し、輸入貿易の第一位を占め、主として米國、エジプト、支那、印度等から輸入してゐたのである。それ故に今後どうしても支那の棉花を育てて日支支經濟ブロック内で自給自足したければならぬ。

昔から天災地變と雖ひ、苛酷な苛政に泣き續けてきた支那農民を指導し、生産資金を援助し、栽培技術も改良する等、大陸の資源開發、新支那建設はまづ棉花からといへよう。



保定の棉花集積



大同炭礦



開慶炭礦



井陘炭礦



大冶鐵山



龍坪鐵礦



支那

支那は地域が廣い割に交通が不便なため地産資源も、最近迄調査も充分に出来ず、従つてその大部分はほとんど未開發のままに置かれてゐたのである。が今事業を契機として先づ開發のスタートは冀北、北支方面から切られた。

さて占領地域内の礦物資源のうち最も主なものには鐵と石炭である。

支那の石炭埋藏量は従来の調査程度でも二千四百億噸といはれ、わが國石炭の全埋藏量の十倍に及び、その約六割が主として北支にあり、就中山西省がその大宗である。

山西省の大同は二百億噸の埋藏量があり、その炭質は於ても、量に於ても正に東洋一といはれ、一般に最も期待されてゐる炭田である。事變前は開鑿の勢力下で年額二、三十萬噸の出炭を見てゐたのであるが、今や五千の苦力を使ひ「十年後年産三十萬噸」を目標に増産計畫が實現されてゐる。

河北省にある英人經營の開慶炭は製鐵用炭として昔から餘りにも有名であるが山東の中興炭、河北の井陘炭の開發が本格的に進捗すれば開慶炭も今迄のやうに繁華を感ずることが出来ない。

石炭は燃料なりとの従来の考へは化學の進歩と共に變化して幾多重要な含有成分を分離する重要な原料として重視されるやうになり、今日では石炭資源の重要性が益々痛感されるのである。

豫漢では中支に有名な大冶鐵山がある。この鐵石は非常に質が良く、而もその埋藏量は一億噸といはれる。事變前は年數十萬噸の大冶の鐵石がわが國へ輸出されてゐたが、又わが國でもこの會社に多額の資金を投資して、特殊の鋼材にあつたものである。過ぐる日、東支には支那軍の如何なる非道行為も何の役にも立たず、大冶鐵山の復興は今や目覚ましく進みつつある。

長江沿岸、蘇州附近にも銅官山、桃沖、大平等、品位の高い鐵山が多く、長江を利用して運搬の便もよいため、大いに期待がかけられてゐる。赤鐵礦の埋藏量一億二千萬噸といはれる豫漢、蘇南地域の豫漢鐵山は、感々開發の軌道にあり、產出總量は年々ともに増進を示してゐる。この他、山東省の金嶺鎮、山西の太原附近などにも有名であり、また、河北の南部、山西の西部及び南部、豫漢方面の陝山、山西の東部の或る人の言によれば、わが國に空氣、水、鹽、及び石炭あれば何事か成らざらん。しかし更にこれに加ふるに鐵を以てすれば尚よい譯で、即ち天下成るともいふことが出来るかも知れない。

礦物資源としてはこの他に冀東附近や山東省に金、銅、鉛、錫、マンガン、黒鉛、石綿、雲母、天然石膏、重晶石、マグネサイト、耐火粘土等が挙げられる。

またアルミニウム製造用水晶石の原料として或は各種金屬の製錬用、硝子工業用等重要な用途を有する螢石は杭州附近に産するので有名である。

以上が現在までに調査された支那の占領地域内の重要資源特には棉花、石炭、鐵に就いてゐるが、然し資源は埋藏量幾何等といつても、只そのまゝにしておいたのでは何の役にも立つてゐない。これを開發し、取得し、利用してこそはじめて價值を生むのである。それには先づ交通の整備充實、開發方法の改善等が研究實施されなければならぬ。従つて日本の優秀な技術と豊富な資本が必要であり、また從來支那産業不振の原因をもつと徹底的に研究改正することの重要なことは勿論である。



撮影 内閣情報部

今年は
卯年
兔も戦争に

出来上った防弾帽 夏二区で大団子作り



航空用防弾手袋 袖口をよかくと縫めるのは男手、やがて操縦機を操る勇士の手で使われることだらう。



電線航空頭巾、零下何十度といふ寒いこともある上空に飛ぶ勇士の頭部を覆うこの防弾帽にも電線線を通るんだ臭毛が房々としてゐる



防弾用外套、外套の中でも一番暖かくなくてはならない膝下の箇所はやはり臭毛で保護されてゐる。



農村から買集められた家兎の手皮或は獵人の取納した野兎の皮は鞣されて陸軍被服廠の工員の手に通るとまづ型入れをし切断される。



これは勇士の頭にあたる無布といはれる部分、穴のあいてあるところは耳カバが着く。



航空面、完結の顔面を氷のやうな風から覆うためにやはり兎の毛皮で出来たお面がある。これがないと乗務員の顔面は紫色の凍傷を起す。



防弾帽製作の場合には、まづ切断された臭毛に補綴の裏打ちをする。いまミシンにかけられてゐるのは耳カバになる部分。



無布を帽子に縫ひつける。これに更に兎毛製の補綴(顔にあたる部分)耳カバ等を縫ひつけ補綴の底を入れる。



お供する

今年は卯の年、暖かさうな毛皮にくるまつて紅い眼をばちくり、わが世の春を謳歌してゐる兎はしかし事變以來身を以て聖戦に参加してゐる。
北大陸の冬は酒をも凍らす酷寒だ。この酷寒の中に身を曝し戦つてゐるわが勇士の身を護るために、無布はかくことの出来ないもの。防弾用外套、手袋等の裏、ひく〜と、臭毛をかき毛皮を縫ひつけるのはみんな...



海帯養書



材料 五人前として塩昆布三寸幅のもの八寸位、鰹節一個、白身魚(鯛)は鰹、鰯、鱈、鯛など(の切身を二十枚、薄切大根を大匙二杯、その他マリケン粉、醤油、酒、砂糖、煮出汁少々を適量下さい。

支那を食ふ



1

拵へ方は次の順序になります。
①まづ昆布は一合の水に對して、大匙一杯の鰹節を加へた中に漬けておき、それを更に煮出汁大匙十杯に對して砂糖大匙三杯、醤油大匙二杯、酒大匙一杯の割合に入れて十四、五分間煮てから汁を抜きとります。



2

②鰹節は食鹽小匙半杯、砂糖小匙二杯、酒大匙一杯半をまぜたもので漬けておきます。



3

③魚の切身は鰹小匙五分、砂糖と油大匙一杯づつに甘味料少々をすり交ぜ、更に醤油をまぜ合せます。



4

これで大體材料はとのひましがたが、さていよいよ④の昆布にマリン粉をふりかけ



6

④そのまま油で二分間ほど揚げます。



4

⑤残りの鰹一個と、先程焼いた鰹の白味に、鰹小匙半分と、砂糖大匙一杯と、酒大匙二杯をまぜて一旦炒卵のやうにしてから蒸籠にかけます。



5

⑥これと別に酒大匙五杯、醤油大匙二杯、砂糖大匙一杯の割合のお汁を煮立て、この中に④の材料を入れて輝かしながら汁気が殆んどなくなる位まで煮つけ



6

これ⑥の材料を盛りつけます。湯を水で薄らしながら盛りつけますと、香ばしに仕上がります。この上にもマリン粉をふりかけ



7

⑦海苔類を昆布の類と同じに切つてこの上に置か、煮出汁のやうにふくふく煮ます。



8

布巾で包み、湯で三十分ほど煮ます。布巾で包み、湯で三十分ほど煮ます。



9

⑩とり出して冷めると、布巾を戻して四、五分位の厚さに切ります。



10



指導 小林 実
撮影 梅本 忠 男

⑧昆布の「しつぽ」と⑨の材料をまぜしつぽると肉団子が出来上ります。



7

お正月料理二種



1

材料 五人前として鶏の挽肉七十
五匁、鰹節二個の外、片栗粉、醤油、酒、砂糖、甘味料、粉山椒、醤油、少々を適量下さい。



拵へ方は次の順序になります
①鶏の挽肉を更によくすり潰して卵の黄味だけ一個分と、鰹小匙半分、砂糖小匙二杯、片栗粉大匙二杯、粉山椒小匙一杯に甘味料少々を加へて混ぜます。

②片栗粉をまぜながら二十五個に取分けて丸め



3

③これと別に酒大匙五杯、醤油大匙二杯、砂糖大匙一杯の割合のお汁を煮立て、この中に④の材料を入れて輝かしながら汁気が殆んどなくなる位まで煮つけ



6

指導 小林 実
撮影 梅本 忠 男

金鶏肉球



肖像画の香り



て鏡の通り、その白粉のツツヤが
筆の跡まで美しく、細かな筆跡が
残る。



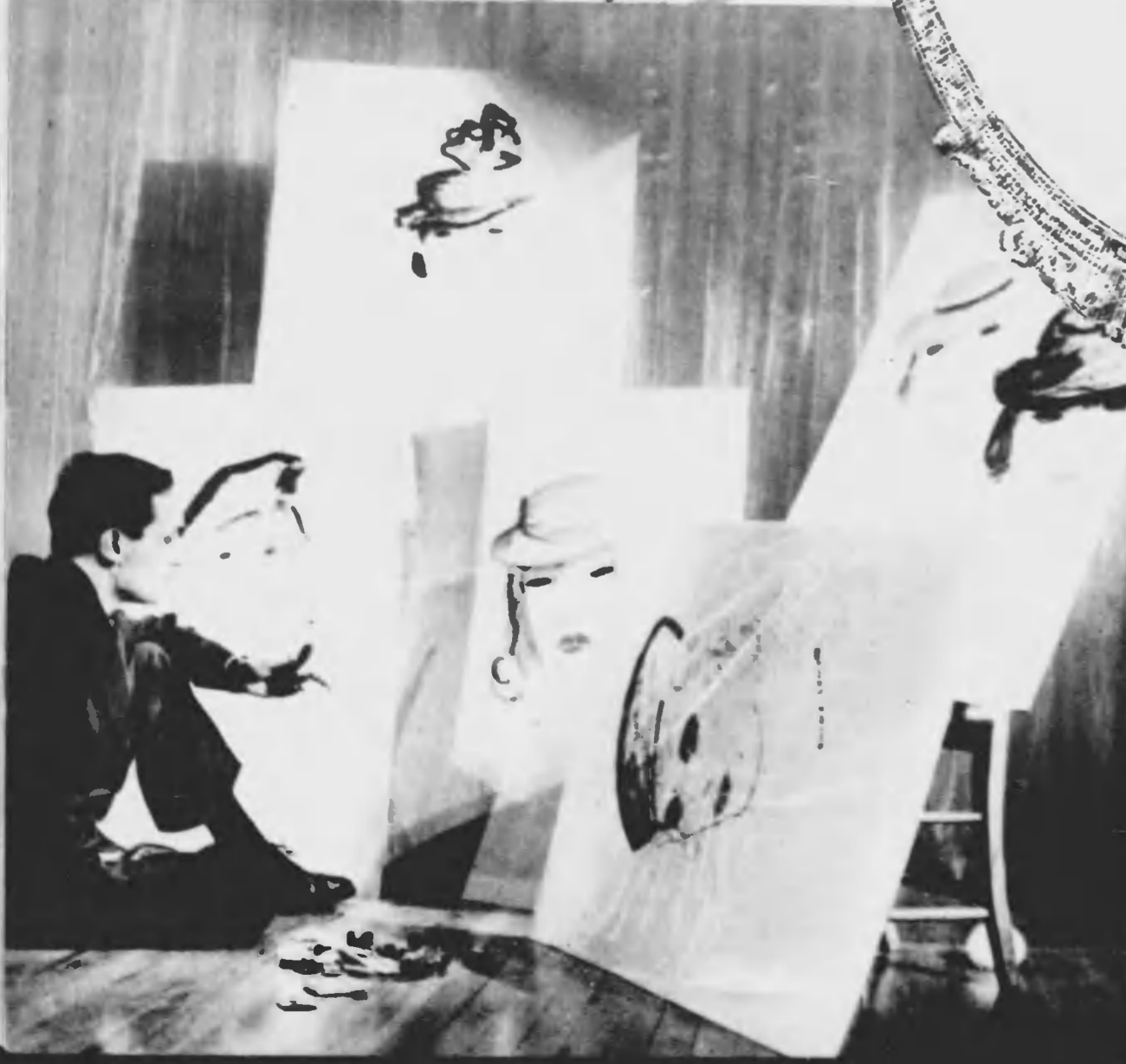
ハレワトは絹具のおほりになん
とあてやかな日紅白粉、アイシャ
ドウに眼薬、コスメチック等々。



伊達な「ユーロ」タ娘のポトレ
イト、しかもこの肖像画は色彩が木
物にうつりてあるばかりでなく、化
粧品と香料がモデルの御使用の
し、同じなもので。

フランスの有名な肖像画家
「ナール・ラモット」氏は婦人の使
用品の御化粧具だけを肖像画
に描きこむという技を創案した。

「ロビンスタイン」といふお嬢さん
がモデルに坐つてゐる。キース
「アール」氏の毛のヴェールまでシ
ヤれたクワチが加へられる。



寒山子祭
 橋本縣足利郡 大川維三
 から鐵砲の火薬節約の役も兼し、また人手不足の折から稲田を産つてくれた寒山子に感謝しようといふので珍式寒山子祭が収穫もすんだこのほど長野県上田市に舉行された。



臺灣青年訓練所聯合演習
 臺南市旭町 渡邊 毅
 昨年十一月二十六、二十七日の兩日に、臺灣青年訓練所聯合演習が臺南市を中心として行はれ、全島二十ヶ所の訓練所、生徒一千二百名が参加、島田文部局長統監のもとに非常時青年の意氣を遺憾なく發揮した。

相撲體操
 東京市 西多摩郡 藤岡泰盟
 壇の上にあがると金華山關取はエツシと引きしまつたかけ聲をした。私たちはグツとお腹が引きしまるやうな氣がし、だん／＼關取のやうに手も、足も、體中があつくなるのでした。

大同の御正月準備
 酒田市鶴岡町 秋野 誠
 晋北大同の街にもお正月が近くなつて、日本人も支那人もその準備に忙し。日本人は日本式、支那人は支那式だが、新しい年を迎へる氣持は變らない。日支協力の新支那建設に邁進しよう。

讀者のカメラ



演を撮る
 東京市淺草區 奥出 茂
 久し振りで郷里の三重縣紀伊引本町に歸省したが、潮風家い演遊には男と女とで女も老人もせつせと驚いてゐる。多くの應召者を出したこの漁村でもその餘技を體氣に誇つてゐるこの人たちの姿は美しい。

餅つき
 東京市澁谷區 寒川 江陽
 愛國行進曲をうたひながら父さんとお母さんの餅つきを見ておますとお父さんも首頭をとるやうに一精になつてうたひだしました。お母さんは一兄ちゃんは今年の正月どことどいなか餅をたべるだらう」といひました。



讀者のカメラ 應募規定

- 一、題材 國民精神、國體、愛國、忠孝、節義、勇武、勤儉、誠實、禮儀、衛生、教育、産業、交通、建設、その他、日本、世界の、風景、人物、動物、植物、無生物、等、何でも可也。
- 二、印刷の大きさ なるべくキヤビネ列が好まし、裏面に寫眞説明及住所姓名明記のこと。
- 三、郵切 毎週火曜日。
- 四、賞品 内閣府、郵務省、農林省、内閣府、郵務省、農林省、等の、賞品、一切、取次、せず、また、複製、印刷、の、版、権、は、常に、保留、す。

磨齒ブラック

薬用



薬用クラブ磨歯は、一般の磨歯のもの吸着作用、その他の効果を悉く完備した上に、更に無比の磨歯・薬効性能をもつ唯一の薬用磨歯です。ムシ歯や口臭・歯槽膿漏を完全に豫防・防止し、歯と歯ぐきを強化する効果は、到底他の平凡な磨歯の並従を許しません。



大福公印・クラブ磨歯

真週報

昭和十三年二月十二日

第三種郵便物認可

昭和十四年一月四日發行

(毎週一回水曜日發行)

第四十六號

(本書の大きさは国定規格A4・『週報』倍判)

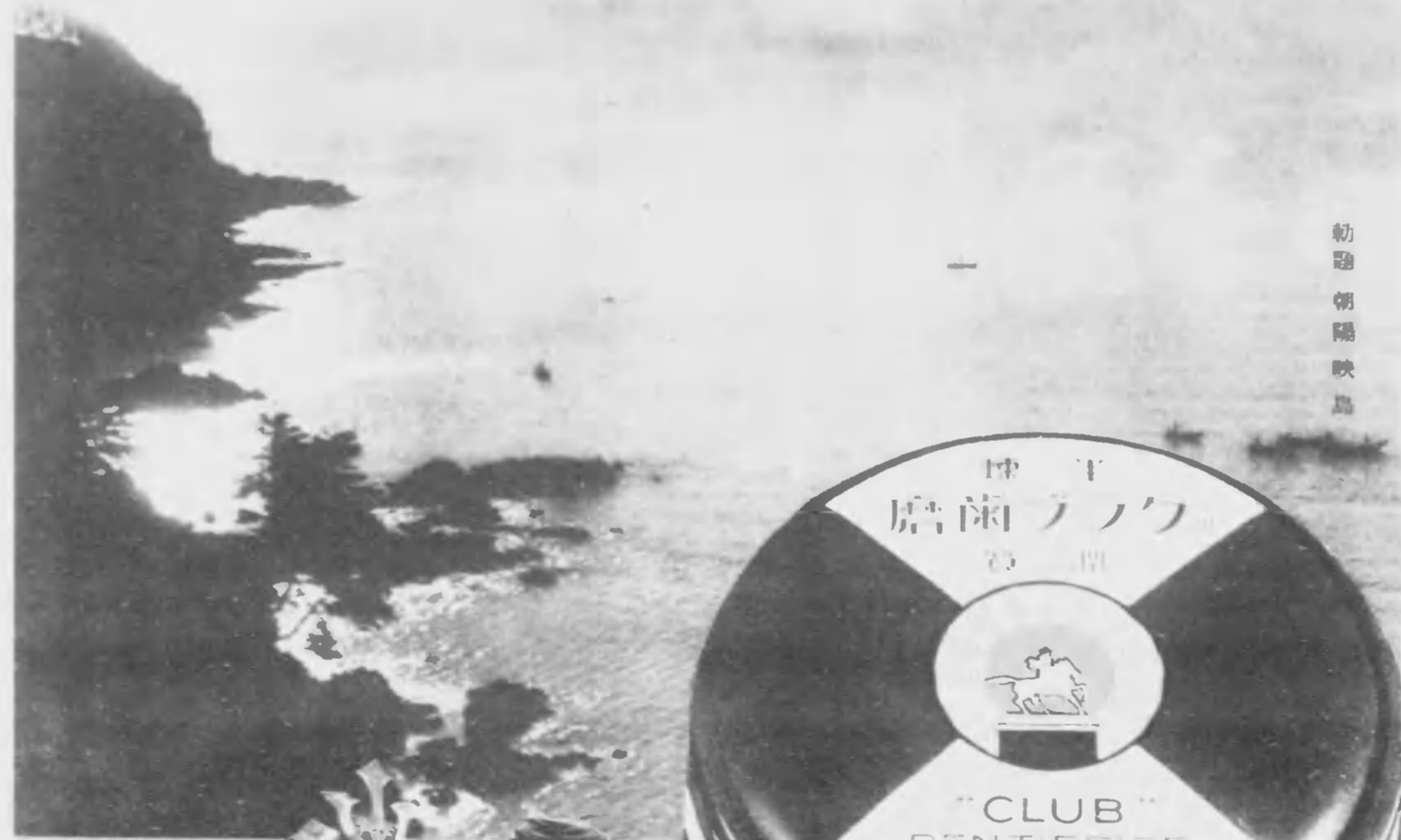
露光量違いにより重複撮影

磨歯ブラク 薬用

勅諭 朝陽映島



薬用クラブ磨歯は、一般の磨歯のもつ吸着作用、その他の効果を悉く完備した上に、更に無比の殺菌・薬効性能をもつ唯一の薬用磨歯です。ムシ歯や口臭・歯槽膿漏を完全に豫防・防止し、歯と歯ぐきを強化する効果は、到底他の平凡な磨歯の追従を許しません。



大楠公印・クラブ磨歯

寫眞週報

昭和十一年一月廿五日 第... 大楠公印・クラブ磨歯

本誌の大きさは... A4・週報... 倍...

露光量違いにより重複撮影